

授業科目名	【Gカリキュラム】 憲法（人権）Ⅱ ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 憲法（人権）Ⅱ	選択	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	基本的人権各論	担当者	小林 伸一			
授業概要	<p>【概要】 日本国憲法 15 条から 40 条で保障されている人権について、通説的な学説に従いながら講述する。</p> <p>【到達目標】 主要な人権の具体的内容と限界(違憲審査基準)を修得する。</p>					
履修条件	本講義は、受講生全員が憲法概論の単位を取得していること、並びに憲法人権Ⅰの単位を取得していることの2点を前提に進める。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法 第六版』（岩波書店 2015 年）</p> <p>【参考書】 大沢秀介・大林啓吾編著『判例アシスト憲法』（成文堂 2016 年） 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社 2018 年）</p>					
授業回数	授業内容					
1	憲法人権Ⅰの復習と補完 予習：憲法人権Ⅰの講義内容		復習：憲法人権Ⅰの講義内容の再確認			
2	思想・良心の自由 予習：149 頁 - 153 頁		復習：内心・沈黙の自由 謝罪広告事件 君が代ピアノ伴奏拒否事件			
3	信教の自由 予習：153 頁 - 159 頁		復習：信仰の自由 宗教的活動の自由 加持祈祷事件 日曜参観事件			
4	政教分離原則 予習：153 頁 - 159 頁		復習：津地鎮祭事件 目的効果基準			
5	表現の自由 1 保障価値と具体的内容 予習：175 頁 - 180 頁		復習：国民の自己統治 個人の自己実現 情報の伝達・収集・受領			
6	表現の自由 2 違憲審査基準 予習：193 頁 - 213 頁		復習：二重の基準論 事前抑制の禁止 明確性の原則 LRA			
7	職業選択の自由 予習：224 頁 - 230 頁		復習：消極目的規制・積極目的規制 小売市場事件 薬事法事件			
8	財産権と私有財産制度 予習：233 頁 - 237 頁		復習：森林法事件 証券取引法事件			
9	生存権 予習：267 頁 - 271 頁		復習：抽象的権利説 朝日訴訟 堀木訴訟			
10	教育を受ける権利 予習：273 頁 - 277 頁		復習：旭川学力テスト事件 児童生徒の学習権 教師の教育権			
11	勤労者の権利 予習：280 頁 - 283 頁		復習：組合結成権 団体交渉権 ストライキ権 労働基準法			
12	国務請求権(受益権) 予習：256 頁 - 259 頁		復習：国家賠償請求権 損失補償請求権 請願権			
13	刑事手続き上の人権 1 被疑者の権利 予習：242 頁 - 246 頁		復習：適正手続き 逮捕の要件 刑事訴訟法			
14	刑事手続き上の人権 2 被告人の権利 予習：246 頁 - 255 頁		復習：迅速な裁判 公開裁判 一事不再理			
15	選挙権と被選挙権 予習：260 頁 - 266 頁		復習： 権利・公務二元説 公職選挙法			
評価方法	期末試験の成績(90%)と受講態度の良し悪し(10%)を総合的に評価する。					
評価基準	本講の趣旨・内容を十二分に理解し、そのことが試験答案に顕著に表れている受講生は、「S」または「A」とする。講義内容についての理解が必ずしも十分とはいえず、しかも試験答案の表現が的確とはいえない受講生は、その程度に応じて、「B」または「C」とする。講義内容に対する理解が明らかに不十分で、しかもそのことが試験答案の内容・表現に如実に表れている受講生は、その程度に応じて、「D」または「E」とする。期末試験を正当な理由なく欠席した受講生は、「F」とする。					
その他	私語はもとよりスマートフォンの使用も厳禁とする。 ※G 別：法【-】 法【-】 情【-】 / EF 別：法【-】 法【-】 経【-】					